

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 各国中銀総裁の今後の姿勢は

2020年11月9日

ECBが主催して、例年6月頃にスペインのシントラで開催されているECBフォーラム。ECB総裁及びECB関係者はもとより、世界各国の中銀関係者や著名な学者などが集結し、マーケットの注目を集める大きなイベントの一つとなっています。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期されていた同フォーラムですが、11月11日、12日にオンラインイベントとして開催されることとなりました。

テーマは移り行く世界の中での中央銀行。新型コロナウイルスの感染拡大などを受けて世界経済が大きく揺れ動く中で、中央銀行がどのような役割を果たすのか。今後の各中銀の姿勢などを確認する良い機会ということもあり、注目を集めています。

初日もラガルドECB総裁の基調講演やレーンECB専務理事兼チーフエコノミストが司会を務めるパネルディスカッションなどがあり、要注目ですが、市場の注目をより集めているのが二日目。二日目の夕方に同フォーラムの目玉企画として予定されているのが、バイリー英中銀総裁、ラガルドECB総裁、パウエルFRB議長と、米、欧、英の中銀総裁がパネリストとして並ぶ「Policy Panel」です。なお、司会は英経済紙フィナンシャルタイムズ(FT)のカラフ編集長を務めます。

米国、ユーロ圏、英国はいずれも新型コロナウイルスの感染拡大の動きが直近で深刻化しており、ドイツ、フランスなどのユーロ圏主要国や英国では1カ月単位でのロックダウン再開に踏み切るなど、経済への影響が深刻。そうした中、各中銀とも金融政策面での経済支援姿勢を強めています。

英国は5日の英中銀金融政策会合(MPC)で量的緩和策(QE)である資産買い入れプログラムの最大枠を従来の7450億ポンドから8950億ポンドに1500億ポンド引き上げることを決定。マイナス金利についても議論を続けていると、今後の実施の可能性に言及しました。

先月29日の理事会では金融政策の現状維持を決めたECBは、その後のラガルド総裁による会見で、ユーロ圏の警戒回復は予想以上に急速に勢いを失いつつあると警戒感を示し、12月の理事会で行動を起こすことはほぼ疑いないと次回会合での追加緩和実施の見通しを示しました。

先週4日、5日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で金融政策の現状維持を決めたFRBも、その後の会見で新型コロナウイルスの感染拡大のペース加速はリスクであると警戒感を示し、財政・金融両面での追加的な支援が必要であると、追加緩和姿勢を示しました。また議長は、今回の会合で資産買い入れについて議論したと発言。現状で月額1200億ドル規模となっている資産買い入れ額について、規模に加え、構成・デレーション(買入れた債券のキャッシュフローの加重平均で平均回収期間)などについて変更を打ち出す可能性を示唆しました。

このように金融政策の直近での変更もしくは近い将来での変更見通しが広がる3中銀ですが、市場ではさらにもう一段踏み込んで、英中銀とFRBに対してはマイナス金利の

導入、ECBに対しては、マイナス金利を採用する中銀預金金利の深堀や主要金利のマイナス金利化なども含めて期待する動きがあり、今回のディスカッションでの発言が注目されています。

ドル、ユーロ、円、ボンドの主要四通貨のうち三通貨での金利面を含めた追加緩和の期待が広がると、相対的に円が買われやすくなるだけに要注意。ドル円は節目の104円を5日の市場で割り込むなど、円高が進行する流れとなっていますが、この流れがさらに加速する可能性もありそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。